

特集 研究会レポート—診断士がかかわるまちづくり

第5章 「銚子まちづくりへの提言」

～ワークショップ実況中継～

東京支部 まちづくり研究会

<司会>平松 徹



ワークショップスタート

平松：私たちまちづくり研究会のメンバーで、平成21年10月17日(土)～18日(日)の2日間、千葉県銚子市に視察研修に行きました。銚子はとてもよいまちですが、訪れてみるとさまざまな課題を抱えていることがわかりました。

そこで、わが研究会の鹿倉勝巳代表が、銚子のまちづくりに対する提言の骨子を作成し、その骨子をたたき台にして、研究会メンバーによる今回のワークショップになりました。

まず鹿倉代表から、「提言案」の内容のご説明をお願いします。

鹿倉：ザッとお話しします。まちづくりには観光振興、都市計画、商業振興の3つの観点があります。

まず、①観光振興分野では、市内観光資源の再構築によるアスティネーション化が重要です。アスティネーション化とは、観光での最終目的地化を図ることです。②商業振興分野では、平成22年3月下旬にイオンが進出予定であることを踏まえて、商店街における安心安全への取組みが重要です。銚子の物産を扱う「銚子セレクト市場」についても検討したい。さらに③都市計画分野では、外川地区を中心に提言をしたいと思えます。

平成22年3月下旬に予定されているイオンSCの営業スタートは、銚子のさまざまなところに大きな影響があります。そこが提言をするうえでの最大のポイントと考えています。

イオン SC 進出を どのように考えるか

平松：ありがとうございます。それではまず、イオンSCに対してどのような手があるのか検討しましょう。

竹内：イオンSCの概要ですが、銚子市の郊外部、屏風ヶ浦の近隣に物販面積3万3千㎡、駐車場台数2,698台とかなり大型です。「時間消費型の施設」ですので、SC内で時間を消費した後に市街地を回遊させる仕組みがあればよいのですが、なかなか難しいですね。

たとえば、イオンの優れた運営ノウハウを勧案すると、SC施設内に農水産物の市場をつくるくらいのことはやるでしょう。そのときに銚子の売りの1つ、魚市場、水産ポートセンターや観光客に人気の嘉平屋のある銚子漁港周辺が素通りされることにならないよう、今から対策を立てておく必要があります。

鹿倉：イオンとの相乗効果は期待すべきではありませんね。イオンSCのお客さんは、中心部には魅力を感じないでしょう。それ

よりも、イオンの中に地元の店を入れるという話を聞きました。それを銚子の駅近くに新しくできた「銚子セレクト市場」が引き受けたらよいと思います。イオンから稼ぐという逆転の発想を持つことなども必要です。

寺井：平成21年11月28日(土)に「銚子セレクト市場」を訪問してきました。まだ本格開業・運営にはほど遠いイメージでしたが、来店客は多かったですね。売り切れたの商品もありました。

店舗は銚子駅前の元パチンコ店。広い面積の半分程度が売場で、残りの半分は事務所スペースと空きスペースです。この空きスペースをギャラリー等として活用することも可能です。椅子席も用意されており、店舗で購入したものをその場で食べられるような店舗になっていました。

セレクトショップの空きスペースにパソコンを設置していますが、大学生や高校生が来店して使っています。若者の姿がみられないのが銚子駅周辺地区での課題でしたが、この点でセレクトショップの潜在的な可能性が感じられます。

銚子セレクト市場をどのように育成していくかということが、今後のまちづくりではポイントになると思います。

中心市街地商店街の対応は……

河合：イオンの出店で、商店街にも大きな影響が出ます。それもマイナスの影響が多いことが予想されます。そこで商店街再生の可能性ですが、既存商店街におけるイオンとの差別化においては、商店主自身が商業者の意識から抜け出して「生活インフラ」としての自覚を高め、住民を囲い込んでい



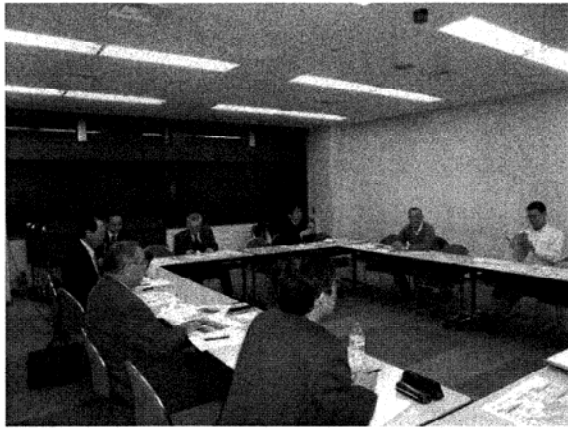
まちかど博物館のポスター

く必要があります。

そのためにもまずは、防犯パトロールや高齢者支援、環境配慮といった公共的な役割を果たす取組みが必要です。地域からの賛同を得るとともに、商業主自身が行うことで、エコポイントを絡めるなど事業性ある活動として展開していくことも可能になります。

加えて、地元店情報を住民に発信していく取組みも必要です。銚子市の商店街では、有志店舗が共同スタンプラリー「まちかど博物館」を実施しています。こうして住民と商店街との距離を縮めて地元の住民に「わが町意識」を持ってもらい、住民を地域に巻き込んでいくことが、SCとの差別化へ向けての商店街の1つの生き方だと思います。

鹿倉：東銀座商店街は特にシャッターが下りている店も多く、シャッターを開けて電気をつけ、貸し出して自由に使ってもらうことなども提案したいですね。いわゆる家守り事業として、まちづくり事業組織がコーディネートしていきます。最初は、水道光熱費くらいは負担してもらおう。使いたい人が増えてきた段階で、使用料を無料から有料に切り替えていけばいいと思います。



ワークショップの風景

少なくともアーケードは撤去すべきですね。かなり年代が経っていて、壊れかけているところも多く、大げさでなく少々危険です。

観光振興は回遊性がポイント

手塚：モータルミックスという概念がありません。複数の交通手段を合わせることで、移動や輸送を最適化する方法です。

銚子の場合、既存の交通機関を保護、存続する意味で、地域でのモータルミックスの取組みが向いていると感じました。

たとえば、格安の公的機関によるレンタルサイクル（各駅や拠点で乗り捨て可能）の導入などです。パリやロンドンでは導入されています。

また、自転車を電車持ち込み可能とすれば、駅から施設までの距離の問題も解決しやすいのではないのでしょうか。自転車の電車内への持ち込みは、熊本電鉄などで行われています。

また、地域のバスと銚子電鉄、レンタルサイクルなどの共通チケットや、高速バスとのパックなども有効ではないかと考えます。

竹腰：レンタルサイクルを銚子電鉄の各駅に設置するなどはどうでしょうか。自転車はどの駅でも乗り捨て自由にします。ロードマップを作成し、銚子駅前から銚子地区を網羅することも可能にします。これは銚子駅を拠点化し、観光バスを引き寄せる1つのマグネットになるでしょう。

この実現には、自転車で行きたいと思わせる観光拠点や道路の整備も必要になります。

平松：寺井さんは、1年間地域再生マネジャーとして銚子のまちづくりにかかわっていらっしゃったわけですが、そのあたりはいかがでしょうか。

寺井：車を使わない徒歩や自転車を使った観光ルートは、私のブログでも何度か提案してきました。たとえば、展望館から渡海神社、そして外川への下り坂はよい散歩コースなのですが、夏場は草が生い茂って歩道がなくなってしまいます。市役所に話したこともあります。人材も資金もかけられない状況だと思います。お金をかけない方法を考える必要があります。サイクリングには、銚子駅周辺や銀座通り、外川海岸沿いなど走りやすい道もありますが、断続的なのが問題です。

吉川：たとえば、観光バスで来た観光客を「地球の丸く見える丘公園」のところに降ろして、バスはそのまま銚子駅前行き、待機する。観光客は銚子電鉄を使って中心市街地に帰る。あるいは自転車でもよいし、銚子電鉄を乗り継いだり、歩いて帰ってもらってもよいですね。

河島：銚子電鉄は、銚子市の東部を半円弧状に銚子駅から外川駅までの6.4キロを単線でつないでいるローカル鉄道です。発祥は、大正2年の銚子市の商業と観光地の犬吠を

結ぶ銚子遊覧鉄道で、観光は銚子電鉄のDNAではないかと思います。全国の多くのローカル鉄道が、モータリゼーションや人口の減少などにより経営不振にあえぎ廃線となっていく傾向がみられます。銚子電鉄は、副業の「ぬれ煎餅」などの食品事業が黒字で、平成19年度鉄道統計年報をみるとトータルでは黒字であり健闘しているといえますが、鉄道部門の営業損益では赤字です。平成18年に車両検査費用の捻出の見込みが立

たず、インターネットに「運行車両の点検整備費用を捻出できないので助けてほしい」と掲載したところ、全国の鉄道ファンから支援の声が沸き上がり、ぬれ煎餅が爆発的に売れ、点検費用を賄うことができました。平成19年には、市民等の支援団体として「銚子電鉄サポーターズ」が立ち上がっていますが、現在は活動を休止しているようです。

銚子電鉄に勤務する向後功作氏の著作では、銚子のまちづくりの中心に銚子電鉄を位置づけています。「魅力的な観光スポットを銚子電鉄で訪れる」ほか、「駅や沿線の施設でさまざまなイベントが開催され地元の人も銚子電鉄に乗る機会が増える」ことで「街が活気にあふれる」と述べられています。まちづくりに銚子電鉄を地域資源として活かすという視点です。

吉川：銚子電鉄は、駅ごとに特徴があって面白いと思います。私は駅舎に磨きをかければ十分に観光資源になると思います。

河島：内野屋工務店が銚子電鉄のオーナーだったバブル期に、銚子駅や犬吠駅などの駅舎はメルヘン調に改築されました。しかし、それらもかなり老朽化しています。いずれにしても、銚子電鉄は「観光の切り口」に



銚子電鉄

さらに磨きをかけ、観光資源としての重みを増すとともに、地元住民との交流・心のふれ合いを通じ、銚子電鉄の意義・役割を再認識してもらうことが必要だと思います。

遠藤：駅はかつて、あるいは現在でも人が集まってくる場所に設置されているはずですが、それぞれの駅の立地や市場性を踏まえつつ、公民館やカフェのような地域交流機能、図書館のような文化機能、デイケアセンターや保育園のような福祉機能、美術館やアトリエのようなアート系機能、体験観光施設のような観光機能といった機能を併設し、駅の特徴づけを行うことで、銚子に密着した駅づくりを進めるのも1つの手でしょう。その際には、行政との連携はもちろんのこと、民間企業や地域の各種団体との連携も求められます。

竹内：観光バスのルートを見ると、千葉では成田山まで廻りますが、銚子は犬吠埼止まりです。半島全体を巡るバスが見当たりません。客を呼ぶ施設として、個々では機能が弱い「地球の丸く見える丘公園」、外川、渡海神社、銚子電鉄など、隠れた名所の中に「ポートタワー・ウォッセ21」を組み込み、周遊ルート化して売り出すことなども考えなければ、これらの施設を活かすこと

は難しいと思います。

竹腰：まちづくりを考える際、まちの外から人を呼び込むとともに、そのまちに住む人にまちに出て回遊してもらうという視点も大切です。銚子駅前で開催されているフリーマーケットや外川でのまち歩きなどは、住む人にとってもよい取り組みです。今回訪問する機会があった銚子銀座や東銀座、渡海神社などといった多様な地域資源を活かして、「まち歩き拡大」の取り組みを行うようなことは有効でしょう。

平松：地元住民向けと同時に観光客のまち巡りという意味でも、商店街通り沿いの寺社や緑地帯、時計台、漁師御用達の食堂など、何気ない地元資源を発掘してまち巡りルートとすることも一策です。

地元住民にとっては当たり前の日常風景でも、外部の人間にとっては、自分と異なるローカルな生活文化や暮らしぶりこそが観光的な魅力となります。

観光振興のもう1つは グリーンツーリズム

諏訪：銚子の観光に「グリーンツーリズム」を取り入れてはいかがでしょうか。都市生

活者に、喧噪を忘れて、のんびりと田舎暮らしのよさを満喫してもらうのです。銚子は東京から近距離で、自然に恵まれた絶好の地です。農業・漁業の実体験を通して生の銚子の生活を味わっていただく。その中で、地元の方の豊富な経験と知識に裏打ちされた手助けなしでは何もできないことに驚きを感じると同時に、人と人のつながりが深まります。知らず知らずのうちに、体験者は第2のふるさつを見つけないことにもなり、リピート率が自然と高くなります。

平松：グリーンツーリズムは、「こちらに来て体験してみよ。そちらで食べてもそれほどでもないでしょう」ということです。たとえば、「食」は生活の一部です。自分でつくったものをその場の中で、味わい楽しむことが大切になる。フードマイレージ（食料輸送が環境に与える負荷を数値化したもの）なども考えると、これからの低炭素社会への取り組みの1つの有力なツールであることは間違いありません。ただ、人の移動があるので、それほど単純な問題ではありませんが……。

鹿倉：グリーンツーリズムでは、宿泊機能と学習体験プログラムが重要ですが、エリアによっては民宿はかなりありそうです。十分に可能だと思います。

寺井：銚子には魅力がたくさんあります。銚子で暮らし始めてしばらくすると、三方を海と大河に囲まれたスケールの大きな景観だけでなく、外川の街並みなどの何気ない風景や表情豊かな空、そして市内各地から眺める夕日が素晴らしいと感じるようになりました。

有名な青魚はもちろん、キンメダイや磯ガキなども抜群に美味しく、冬にはアンコウやフグが手頃に食べられることに感動しました。キャベツ



ワークショップ

や大根などの新鮮な野菜や、美味しい豚肉があることも、来てから知ったことです。

観光振興で大切なのはホスピタリティ

吉川：今回、銚子を初めて訪れましたが、意外に東京から近く、ぜひ再訪したいと思いました。

銚子は、インフラ・道路・店舗などが優れています。その反面、街全体の雰囲気づくりについては努力が必要です。昔は繁栄していたという街自身のベースもあり、「今のままでも何とかやっていける」というムードが街全体から感じられました。

街に来てくださるお客様がいて、初めて街が発展します。街の人たちが来街者に対し“この街に来ていただいてありがたい”と思うことで、自ずと「もてなしの心」で接するようになる。この「もてなしの心」こそが、街づくりに大切な要素です。

平松：街を廻りましたが、細かいところを大切にしていないですね。たとえば「地球の丸く見える丘展望館」の下の「ふれあい広場」には、銚子に点在する国木田独歩の文学碑のレプリカなど、素敵なものがたくさんありました。しかし、クモの巣がいたるところに張っています。渡海神社の灯籠の中も、壊れたまま放置されていました。小さなものを丁寧に扱うこと、小さな場所を大切にすることなどがホスピタリティの原点です。とても惜しいなと思いました。

都市計画分野では

外川地区の街並み保存と土地利用改善

平松：外川地区には、他にない街並みがあります。坂にできたまちは日本には少ないので、非常に興味深い。狭い坂道、海辺のモーターボートのポート、重なり合うように立っている民家など、みているだけでも楽しいですね。道が狭くて、現在の法律では家を建てることができず、荒地で放置され

ている土地などもありました。

鹿倉：2メートル程度の道路のみに接している土地には、建物が建てられません。朽ちかけている家屋が散見されましたが、このまま放置しておく、街並みが消滅する危険性があります。まちの基盤整備は地方自治体の仕事ですが、都市計画事業として街区整備ができるかどうか検討する必要があります。あるいは、現行の法制度の中で街並みを保存しつつ、家が建てられる方法を検討するための調査事業を、地方自治体の予算で行う必要があるのではないのでしょうか。

雑感

諏訪：銚子を訪れる際、「安くて鮮度のよい海産物」を買えることを期待していました。しかし、街中にそのような物はなかったですね。干物を売る店もありましたが、値段をみると高い。常連と一見さんで価格が異なるのではないかと思います。それが当然に定着しているようです。ここから変えていかなければ始まりません。勇気のある地元の人材を、数名でよいから発掘することですね。

市原：まちづくりは、最後は人だと実感して

ワークショップ参加者の紹介（あいうえお順）

市原 実	東京支部中央支会	1987年登録
遠藤 健	東京支部中央支会	2005年登録
河合陽子	東京支部中央支会	2005年登録
河島 孝	東京支部城南支会	2006年登録
吉川秀則	東京支部城西支会	1988年登録
鹿倉勝巳	東京支部城西支会	1974年登録
諏訪弘安	東京支部城南支会	2004年登録
竹内義男	東京支部城西支会	2009年登録
竹腰敦郎	東京支部三多摩支会	2009年登録
手塚大地	東京支部城西支会	2009年登録
寺井素子	銚子地域再生マネジャー	

(2007年4月～2008年3月)

平松 徹	東京支部城西支会	1983年登録
三橋重昭	東京支部中央支会	1972年登録

銚子まちづくり提言の内容

分野	項目	内容
商業振興	中心市街地商店街の取組み	・銚子セレクト市場を活かす ・東銀座商店街→シャッターを開放して自由に使ってもらおう ・東銀座商店街→アーケードの撤去
観光振興	まち廻り事業	・自転車での銚子廻り ・銚子電鉄の利用 ・地元民のまち歩き拡大の取組みも進める
	グリーンツーリズム	・銚子の魅力の再発見（滞在型農業・漁業学習システムの開発）
都市計画	外川の街並み保存と土地利用改善	・街並み保存を前提とした都市計画事業の可能性の追求 ・現行法制度の範囲内で家を建てる工夫を検討する
これからの取組みのポイント		・小さいことからまず実行し、小さくても結果を出し続けること ・地場を活かすことが大事であり、地場を大切にすること ・ホスピタリティが大切（笑顔と挨拶） ・ときには、課題を逆手にとって居直る方法もあるかも……

います。最近、銚子を訪れていないのでコメントしにくいのですが、人材を押し上げる際の地域エゴがあるのではないのでしょうか。

一般に、地元にいる方々はなかなか「出る杭」になることができない。まちの外の人が、皆を引っ張る役回りになることが重要です。たとえば、寺井さんのような役割の人が銚子の人材を見抜き、周囲を納得させつつ、少しずつ成功事例に結びつけることができればよいですね。

三橋：銚子は半世紀にわたり、下り坂が続いたまちです。市の財政は、市立病院の閉鎖にみられるように危機的な状況で、衰退都市の典型です。そのようなまちに対して、どのようにしたら夢を与え、合意形成し、成功に向けて進んでいける手助けができるのか、よく検討しないとけません。それにつけても、小さいことから実行し、小さくても結果を出し続けることが大切です。

平松：そのとおりですね。人が動けば、まちは変わります。まず大切なのは仕組みであり、次に、つくった仏に魂を入れる人の存在です。

何より地場を活かすことが大事であり、地場を大切にすることです。そしてそれを

ホスピタリティで包み込むことが重要というのが、銚子のまちづくりのポイントということですね。

銚子は広いだけに取組みがなかなか難しいとは思いますが、何らかの活路は開けるとは思います。

最後に鹿倉代表、これからのわれわれの取組みについてお願いいたします。

鹿倉：提言として、よいものができそうです。「NPO 銚子まちづくり協会」理事長で「中心市街地活性化研究会」の会長でもある川津さん宛に、「提言書」を出そうと思います。観光協会や銚子市役所の商業観光課にも話をしたいですね。そして、何といっても商工会議所に精神的な支柱を期待したい。

いずれにしても、合意形成がまず大切です。ただそれを待っていても、話は進みません。小さなところから少しずつ成功を積み上げていくことに、われわれとしては少しでも力を尽くしたいと思います。本日は長時間にわたりありがとうございました。

(了)